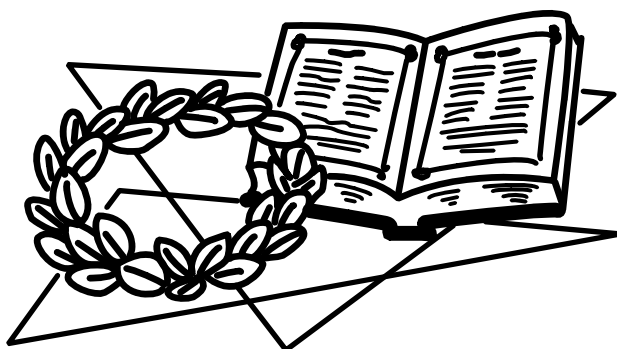


令和二年 度

第六十九回 港区短詩型文学展

入選作品

【と き】 令和二年十月三十日（金） ～ 十一月一日（日）
午前十時 ～ 午後六時
【ところ】 ららぽーと名古屋みなとアクルス
名古屋港区役所
【主催】 名古屋市教育委員会
名古屋港区政協力委員会
【後援】 港区政協力委員会
【協力】 ららぽーと名古屋みなとアクルス





短歌の部

選者作品	クローバーの	みどり生き生き	湖畔には	コロナ来ぬやう	日傘を廻す	倉地	亮子
特選	鼻歌が	フフと出ずる	祖父なりや	大学生の	女孫の同居に	服部	初音
準特選	せめてもの	心明るく	生きたくて	赤いTシャツ	身にまといおり	武藤	伶子
秀逸	車椅子	免許なくとも	手で操作	音なく静かに	診察室へ	尾崎	浩人
佳作	にっぽんの	夜明け	八月十五日	七十有余の	歴史刻めり	成瀬	子遊
	目に見えぬ	コロナに割かれ	なかなか	会えぬ友より	手作りマスク	中山	紀久子
	初孫に	右往左往の	妹よ	猛暑、コロナ禍、	上手く	高岸	直子
	鮎二匹	絵に写し終え	役目	済み	今宵夕餉の	主役となりぬ	驚野
	訳ありて	我家に住みし	野良猫も	いつの間にやら	主役の顔に	石野	順造
	落葉積む	ふかふか路を	登り行く	初夏のこもれば	春蟬の声	川合	道子
	瑠璃色の	朝顔に降る	雨優し	深き海ごと	心が染まる	森	まゆみ
	町カラス	生ゴミ散らし	うわさする	「今日はだめだね」	「ろくなもんない」	西川	千春
	十五夜の	月のうさが	餅をつき	眺める人に	くぼる夢見ん	豊田	英子
	朝顔や	赤白青の	花競い	精出し延びて	天までとゞけ	尾崎	香月
	車椅子	誰が名付けたや	車椅子	燃料要らずの	公害知らず	尾崎	都
	おたやかな	自肅の夏の	縁側に	空しくテレビ	一人言なり	加藤	充
	薄暗く	苔むし繁る	那智古道	雑木のトンネル	木々の間に	尾崎	節夫

俳句の部

選者作品	ほととぎす	雨の切株	匂ひけり
特選	漢詩読む	夫の傍ら	秋あかね
準特選	庭貸して	虫の音聞くや	時忘れ
秀逸	病室に	君の日傘の	花模様
菊の香に	漂よう朝の	ひかりかな	
何気無い	友との会話	秋日和	
夏草を	抜いて佳き風	先へ、	
太陽と	何話してる	ひまわりは	
病棟の	消灯時刻も	遠花火	
素麺が	竹樋を走る	子も走る	
草の花	入り日に連れて	心付く	
水羊羹	つるりと喉を	すべりゆく	
妻安ら	初めてつくる	夜食粥	
すすき越し	白い下弦が	揺れる朝	
母の日や	義母の介護に	明け昏れる	
新涼や	律儀に水車	水落す	
人住まぬ	家にも誰か	盆支度	
ゆっくりと	歩いて口明け	風なめる	
盆僧の	薄衣に下駄	鼻緒の白さ	

服部	鹿頭矢
高岸	直子
木村	富江
大橋	香代子
豊田	英子
石野	順造
鷺野	勝未
中山	紀久子
尾崎	香月
総井	貞夫
増田	裕介
古田	稔子
中川	健治
西川	千春
成瀬	子遊
宮内	和子
尾崎	節夫
尾崎	都
尾崎	浩人

川柳の部

選者作品	住むみなど	四季が笑顔に	してくれる
特選	逆転の発想	知恵の輪が	抜ける
準特選	ユーモアが	苦労話に	味を添え
"	小さい夢	老いの孤独を	忘れさせ
秀逸	コロナ禍が	世界の歴史	覆す
"	氷山を	割って都政の	舵をきる
"	趣味の会	仲間入りして	生かす脳
"	汗かいて	愚痴をこぼして	丸くなる
"	空蝉を	残して秋の	赤とんぼ
佳作	塵一つ	拾って広い	町にする
"	ギンナンが	孫から祖母へ	朝の膳
"	朝一に	ラジオ体操して	鍛え
"	花より葉	春より秋の	あでやかさ
"	新コロナ	オリンピックを	蹴っ飛ばす
"	札入れが	診察券で	ふくらんで
"	乳呑み子と	鼻面合わせ	寝る小猫
"	集まるナ	大声出すナ	家籠れ
"	書き増しや	扶養控除に	犬と猫
"	夕立や	雨風走る	滑り台
富田 末男	平松 由美江	石野 順造	武藤 伶子
鬼頭 しず江	武田 啓子	松原 峰子	鷺野 勝未
福田 良兵	成瀬 子遊	大森 孝子	溝口 文子
西川 千春	総井 貞夫	中山 紀久子	尾崎 香月
尾崎 節夫	尾崎 節夫	尾崎 節夫	尾崎 節夫
尾崎 浩人	尾崎 浩人	尾崎 浩人	尾崎 浩人

